はじめに

本講座は、国公立二次試験の問題を中心に扱った講座です。
国公立の二次試験は、記述中心で構成されています。
●重要語の読み（副詞が多い）や意味
●書き下し文（「すべて平仮名で」という指定が多い）
●現代語訳
●理由・解釈などの説明問題
などが出題されます。最後に本文全体に関わる問題を出されることも多く、傍線部だけではなく本文全体をきちんと読み込み、全文の主旨を把握することが必要です。よって、この講座を受講する前に、「高1・高2ベーシックレベル漢文」か「高1・2・3漢文」のどちらかを既に受講し、それらの内容はすべてわかっていることを前提とします。

本講座では、スタンダードであまり扱えなかった「漢文常識」や「文学史」にも触れます。
たとえば「老子」という名前を聞けば、どういう思想の人かすぐに思い浮かびますか？
「諫言」とはどういうことか、そうすることによってどうなる危険があるか、わかりますか？
このような背景知識があるかないかで、得点も変わってくることでしょう。
より正しく早く読み解くためには、句法だけではなく、このような漢文常識も必要です。
これらの知識を得て、記述式の入試問題に対応できる力をつけましょう！

予復習・授業の受け方について

全ての講において、動画を見る前に該当講の予習をしてください。講によっては、途中に〈講義動画中に使用します〉というページがありますが、そこは予習不要です。大問（一、もしくは一、二の二つ）のみ予習をしてください。

記述問題になると、最初は何を書いていいかわからず、白紙にしてしまう人が多いのですが、「自分で書く」ということをしないと記述力は養えません。間違ってもかまいません。拙い日本語だろうがそんなことは気にしなくていいです。さらに、最初は制限時間なんて気にせず、どれだけかかってもかまいませんので、「自分が納得できるまで解ききること」を、まずは実践してください。

予習が終われば、なるべく時間をあけずに該当講の動画を見てください。時間が経ってしまうと、せっかく予習をしたのに、どうしてその解答にしたのか忘れてしまうので、覚えている間に見ることが重要です。

講義を見終えたら、復習を必ずしましょう。みなさんのレベルだと、句法などは一通り身についていると思いますが、本講座で新しく得た知識や、たとえば書き下し文が記述問題になったときに、送り仮名（特に助詞）があやふやだったもの、接続を間違えて活用のさせ方が違っていたものなどがあれば、再度確認しておきましょう。

「復習問題」は、記述問題を主に出題していますので、本講座ではサイト上での「確認テスト」はありません。テキスト上での「復習問題」として取り組んでください。

目次

第一講　『百喩経』／『三国史記』……p.4
第二講　『資治通鑑』／『史記』……p.16
第三講　『潜研堂文集』／『東坡居士艾子雑説』……p.26
第四講　『庸盦筆記』／「諸子百家・四書五経」……p.34
第五講　『史記』／「儒家・道家・法家」……p.44
第六講　『唐語林』／『荘子』……p.54
第七講　『大唐新語』／『十八史略』……p.63
第八講　『王文成公全書』「文録 一」／『論語』・『論語集註』・『論語古義』……p.71
第九講　『晋書』／『冥報記』……p.80
第十講　『白居易集』／『小雪日、香亭弟贈灰鼠裘』・『礼記』／「詩人」……p.92
第十一講　『清波雑志』／文学史(1)……p.103
第十二講　『東坡全集』「范文正公集序」／文学史(2)……p.110

第一講　『百喩経』／『三国史記』

一　次の文章を読んで、**問一**～**五**に答えなさい（設問の都合で、返り点・送り仮名を省略した部分がある）。

昔有夫婦、有三番餅。夫婦共分、各食一餅。余一番在、共作①要言。②若有語者、要不与餅。既作要已。為一餅故各不敢語。須臾有賊、入家偸盗取其財物。一切所有尽畢賊手。夫婦二人以先要故眼看不語。賊見不語、即其夫前③将略取其婦。其夫眼見、亦復不語。婦便④喚賊。婦語其夫言。云、「⑤何癡人、為一餅故見賊不喚。」其夫拍手笑言。「我定得餅、⑥不復与爾。」世人聞之無不嗤笑。凡夫之人亦復如是。為小名利故詐現静黙、⑦為虚仮煩悩種種悪賊之所侵略。

（『百喩経』より）

〔注〕○要言――約束、誓い。
○癡人――愚かな人。
○嗤笑――あざけり笑うこと。
○虚仮――うそ、いつわり。

問一　傍線部①「要言」とあるが、その内容を具体的に説明しなさい。

問二　傍線部②「若」、傍線部③「将」、傍線部④「便」の読みを、送り仮名も含めてすべて平仮名で記しなさい（現代仮名遣いでよい）。

②＝

③＝

④＝

問三　傍線部⑤「何癡人、為一餅故見賊不喚」、⑥「不復与爾」を、それぞれ現代語に訳しなさい。

⑤＝

⑥＝

問四　傍線部⑦「為虚仮煩悩種種悪賊之所侵略」を、すべて平仮名で書き下しなさい（現代仮名遣いでよい）。

問五　二重傍線部「凡夫之人」とはどのような存在なのか、本文をふまえて五〇字以内で説明しなさい。

〈講義動画中に使用します〉　＊ここは予習不要（**二**は要予習）。

「故」

【名詞】「　　　　」…理由・原因

「　　　　」…❶事件・事故・できごと　❷故事　❸なじみ　❹たくらみ

【接続詞】「　　　　」…だから

【副詞】「　　　　　」…❶わざと　❷わざわざ・特に

「　　　　」…❶本来　❷依然として　❸必ず　❹常日ごろ　❺かえって

【形容詞】「　　　　」…もとの

【動詞】「ふル」…❶死ぬ　❷衰える

＊ 如レ故／若レ故／猶レ故 ＝「　　　　　　　」

「不復V」

❶「　　　　　　　　　　　　　　」

＊「復」の否定

（例）不㆓復タ与ともニ言ハ㆒。〔復た与に言はず。〕

（　　　　　　　ともに話をしなかった。）

❷「　　　　　　　　　　　　　　」

＊「不」を強めている

（例）黄鶴一タビ去ツテ不㆓復タ返ラ㆒。〔黄鶴一たび去って復た返らず。〕

（黄鶴は一たび去って　　　　　　　帰って来ない。）

二　次の文章を読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

温達、高句麗平岡王時人也。破衫弊履、往来於市井間。時人目之為愚温達。平岡王少女児好啼。王戯曰、「汝常啼聒我耳、当帰之愚温達」。王毎言之。及女年二八、王欲下嫁於高氏。公主対曰、「大王常語汝必為温達之婦。今何故改前言乎。a匹夫猶不欲食言、況至尊乎。故曰『王者無戯言』。今大王之命謬矣。妾不敢祇承」。王怒曰、「b宜従汝所適矣」。於是公主出宮独行、至温達之家。見盲老母、拝問其子所在。老母対曰、「惟我息不忍飢、取楡皮於山林。久而未還」。公主出行至山下、見温達負楡皮而来。c公主与之言懐。温達悖然曰、「此非幼女子所宜行、必非人也」。遂行不顧。公主明朝更入、与母子備言之。温達依違未決。其母曰、「d吾息至陋、不足為

貴人匹一。吾ガ家至ツテ窶シク、固ヨリ不レ宜シカラ二貴人ノ居ニ一。公主対ヘテ曰ク、「古人言フ『一斗ノ粟猶ホ可レク春ク、一尺ノ布猶ホ可レシ縫フト』、則チ苟クモ為レバ二同心一、何ゾ必ズシモ富貴ニシテ然ル後ニ可ケン二共ニスト一乎」。乃チ売リテ二金釧ヲ一、買二-得ス田宅牛馬器物ヲ一。

（『三国史記』による）

〔注〕○温達――？～五九〇年。後に高句麗の将軍となる。
○平岡王――別名、平原王。高句麗第二十五代の王。在位は五五九～五九〇年。　○破衫――破れた上着。
○公主――王の娘。　○楡皮――ニレの樹皮。　○悖然――怒って急に顔色を変えるさま。
○依違――ぐずぐずすること。　○一斗粟猶可舂、一尺布猶可縫――出典は『史記』淮南衡山列伝。
○釧――うでわ。

問一　「匹夫猶不レ欲二食言一、況至尊乎」（傍線部ａ）を平易な現代語に訳せ。

問二　「宜レ従二汝所一レ適矣」（傍線部ｂ）とはどういうことか、簡潔に説明せよ。

問三　「公主与レ之言レ懐」（傍線部ｃ）とはどういうことか、具体的に説明せよ。

問四　「吾息至陋、不レ足レ為二貴人匹一」（傍線部ｄ）を平易な現代語に訳せ。

問五　「苟為二同心一、何必富貴然後可レ共乎」（傍線部ｅ）とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

〈講義動画中に使用します〉　＊ここは予習不要

「所」

❶　（Aノ）所レVスル　〔（Aの）Vする所〕　〔（Aが）Vすること・ひと・もの・場所・理由〕

＊下のVを名詞化する働き

（例）　天所授也。　〔天の授くる所なり。〕

（天が授けたこと（人・もの）だ。）

❷　Aノ所ノレVスルN　〔AのVする所のN〕　（AがVするN）

＊N（名詞）を修飾する働き

（例）　問二其所レ知長者一。　〔其の知る所の長者に問ふ。〕

（彼の知り合いの長者に尋ねた。）

前置詞の「与（＝與）」　＊与レN

❶「Nと」／「Nトともニ」

❷「Nノためニ」…〜のために・〜に対して・〜に　〈動作の目的〉

（例）吾与レ子出レ兵矣。〔吾子の与（ため）に兵を出（いだ）さん。〕（私はあなたのために軍隊を出そう。）

❸「Nヲもっテ」…〜を・〜でもって　〈動作の対象〉

（例）与レ汝為レ賓也。〔汝を与（もっ）て賓と為す。〕（お前を随行員とする。）

と↓「読み」の問題として一番頻出。下から返る。
あたフ
くみス（味方する・賛成する）
あづかル（関係する）
ともニス
ともニ（一緒に）
よりハ
か・かな↑〜与。（＝文末）
ためニ

再読文字以外の用法の「宜」

【形容動詞】「　　　　　　」…もっともだ

【形容詞】「　　　　　　」…妥当である様子

【名詞】「ぎ」…正当な道理・適切なあり方

【副詞】「ほとんド」…おそらく

復習問題　第一講

① 「若必ズ禁ジテ其レ不レバㇾ変ゼ、…」の傍線部（接続詞）の読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。

② 「樹即チ応ヘテㇾ声ニ、青翠如ㇾ故。」の傍線部の読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。

③ 「宜速出。」を次のように書き下した場合、空欄 A ・ B にはどのような語句が入るか、それぞれ平仮名で記せ。

A すみやかに B

A＝　　　　B＝

④ 「無ㇾ所ㇾ可ㇾ用。」を平仮名で書き下し文にせよ。

⑤ 「始メテ知ルㇾ為リシヲ二人情ノ所トㇾ患フル。」を、現代語訳せよ。

模範解答

【第一講】

〔模範解答〕

一

問一　三つのお餅のうち、二つは分け合って食べた夫婦が、残りの一つのお餅をかけて、もし言葉を発したならば負けだと決めて、その人には残りの一つのお餅を与えないという約束。

問二　②　もし　③　まさに〜す　④　すなわち

問三　⑤　なんという愚かな人でしょう、一つのお餅のために盗賊を見てもわざと声をあげないなんて。
⑥　決してお前に（このお餅は）与えない。

問四　こけぼんのうしゅじゅのあくぞくのしんりゃくするところとなる。

問五　小さな名誉や利益のために、現実に起きている不都合なことをわざと見ようともせずに、黙認するような存在。（五十字）

二

問一　身分の低い者ですら嘘をつくことを望まない、ましてや身分の高い者〔＝王〕が嘘をつかないのは当然のことだ。

問二　公主が温達の妻となりたいのならばなればいいということ。

問三　公主が温達の妻になりたいと温達に伝えたこと。

問四　私の息子はとても身分の卑しい者で、高貴な人の夫となるような人間ではありません。

問五　もしお互いに結婚する意志があれば、富貴な者である必要などないということ。

〈現代語訳〉

一

昔、夫婦がいて、三つのお餅を手に入れた。夫婦はお互いに分けて、それぞれ一つずつお餅を食べた。余った一つのお餅があり、お互いに約束をした。もし言葉を発した者がいたら、お餅を与えないことを約束した。そこで約束を実行した。一つのお餅のためにわざと決して話をしなかった。しばらくして盗賊が現れて、（この夫婦の）家に入って盗みをはたらき財産を取った。すべての財産がことごとく盗賊の手に渡ってしまった。夫婦の二人は以前にした約束があるので、（盗賊を）目で見てもわざと何も言わなかった。盗賊は（二人が）何も言わないのを見て、とうとうその夫の前でその妻を奪おうとした。その夫は目で見ても、やはりまた何も言わなかった。妻はそこで盗賊に声をあげた。妻がその夫に言った。（妻が）言うには、「なんという愚かな人でしょう、一つのお餅のために盗賊を見てもわざと声をあげないなんて」と。その夫は手を叩いて笑って言った。「私がお餅を手に入れることが決まった。決してお前に与えない」と。世間の人はこれを聞いて嘲り笑わない人はいなかった。凡夫もまたこのようである。小さな名誉や利益のためにわざと現実をきちんと見ないで黙って何もしないでいれば、いつわりや煩悩などの様々な悪いものに入り込まれてしまうのである。

二

温達は、高句麗国平岡王の時代の人である。破れた上着に履き古した草履で、町中を行き来していた。当時の人はこれを見て「愚温達（愚かな温達）」と思った。平岡王の幼い娘がよく泣いた。王がふざけて言うには、「おまえはいつも泣いて私の耳をうるさくする、おまえを愚温達に嫁がせなければいけない」と。王はいつもこのように言った。娘が十六歳になり、王は高氏に嫁がせようと考えた。王の娘が答えて言うことには、「王はいつもおまえは必ず温達の妻になれとおっしゃった。今どうして前言を覆すのですか。身分の低い者ですら嘘をつくことを望まない、ましてや身分が高い者（＝王）が嘘をつかないのは当然のことだ。だから『王に戯れの言葉はない』と言われています。今大王は命令を誤りました。私は決して謹んでお受けすることはしません。」と。王が怒って言うには、「おまえが嫁ぎたい所にいけばいい」と。そこで王の娘は宮殿を出て一人で行き、温達の家に着いた。目の不自由な年老いた（温達の）母親にお目にかかり、挨拶をして息子の温達がどこ

にいるかを尋ねた。年老いた母が答えて言うことには、「私の息子は空腹に耐えられず、山でニレの樹皮を取っています。しばらく経ちましたがまだ帰ってきません」と。王の娘は出て行き山の麓に着き、温達がニレの樹皮を背負って来るのを見た。王の娘は温達に（自分の）思いを言った。温達は怒って顔色を変えて言うことには、「ここは若い女性が来てよいところではない、（おまえは）絶対人間ではない」と。そのまま行って振り返りもしなかった。王の娘は翌朝改めて（温達の家に）訪ねて、母と息子に詳細を告げた。温達はぐずぐずしてまだ決断できずにいた。温達の母親が言うには、「私の息子はとても身分の卑しい者で、高貴な人の夫となるような人間ではありません。私の家はとても貧しく、もともと身分の高い人が暮らすのにふさわしくありません」と。王の娘が答えて言うには、「昔の人は言いました『一斗の粟でも（臼で）やはりつくことができる、一尺の布でもやはり織ることはできる』と。もしお互いの心が同じであれば、どうして必ずしも富と身分を得た後で一緒になる必要があろうか、いや、そんな必要はない」と。そこで金のうでわを売って、畑、家、牛、馬、家財道具を買って手に入れた。

復習問題解答解説

復習問題解答解説　第一講

〔解説〕

① 「若」にはたくさんの読み方があるが、文頭にあり下から返らない場合は「もシ」と読み、仮定の意味。下から返らないものとして、二人称の「なんぢ」もあるが、問題になっている場合はほとんど「もシ」である。ここでは問題文に「接続詞」とあるので、文脈判断するまでもなく「もシ」である。解答は「平仮名で」とあるので「もし」。

② 「故」の読み方も本講で学習した通り、いろいろあるので押さえておくこと。「如レ故」は「もとノごとシ」。解答表記の指定を守るように気をつけること（以下同様）。

③ 「速」を「すみやかに」と副詞で読んでいるので、上の「宜」が再読文字、下の「出」が動詞と判断できる。それがわかれば、「宜」＝「よろシク～べシ」、「出」＝「いづ」で、「べし」は終止形接続であるから「いづべし」となる。

④ レ点が付いているので親切だが、「無」、「所」、「（助動詞の）可」は、すべて返読文字で下から返って読む。助動詞「可」は「べシ」と読み、「べし」は終止形接続。「用」は動詞で、ワ行上一段動詞「もちゐる」でも、ハ行上二段動詞「もちふ」でもどちらでもよい。「所」は（活用する語であれば）連体形接続であるので「べし」は「べき」にする。あとは、それを繋げて読めばよい。

⑤ 「為N所V」は、「NノVスルところトなル」と読み、「NにVされる」と訳す受身の句法。その部分を直訳すると「人情に思い悩まれる・憎悪される」ですが、わかりやすく意訳すると「人の心にやっかいと思われる」、「人から嫌がられる」ということ（同じ意味が読み取れれば、一字一句同じ訳でなくても構いません）。

〔解答〕

① もし　② もとのごとし　③ Ａ＝よろしく　Ｂ＝いづべし

④ もちゐるべきところなし。〔もちふべきところなし。〕

⑤ はじめて人から嫌がられていたことを知る。